

Vol.25 No.3 / 4 Mar. 2000

図書館の仕事シリーズ 13

附属図書館長

附属図書館長 位 藤 邦 生

附属図書館長になって2年になる。その間に自分が何をしてきたかをふり振り返りながら、図書館長の仕事について考えてみたい。大学附属図書館の館長の仕事を端的に言えば、図書館の現状全般に目を配り、あるべき図書館像の実現に向けて、具体的な施策を実行にうつすことにある。以下にその内容をもう少し詳しく述べてみることにする。

附属図書館の自己点検・評価



図書館長に選任される前、数年間、附属図書館運営委員を勤めた。折から大学改革の機運が高まり、大学における自己

点検・評価が大きな課題となっており、附属図書館でも、それぞれの運営委員がしかるべき分野の担当者となって自己点検・評価が行われた。私の担当は広島大学附属図書館の蔵書についての点検で、「図書・雑誌の充実度とこれからの整備に関する検討」を目指し、今は亡き大鷹英子教授と共に作業を進めた。はじめて学ぶことが

多かった。念のためその折の点検項目をあげておけば、以下の5項目である。

- 1．本館・分館組織の総括的検討と予算編成の検討
- 2．図書・雑誌の充実度とこれからの整備に関する検討
- 3．利用者の利便性に関する検討
- 4．情報中枢としての機能に関する検討
- 5．運営委員会の機能に関する検討

後に全学の自己点検・評価の様式にあわせて提出した内容は、以下の項目に従って構成を整えたが、それが、上記内容を踏まえたものであったことは言うまでもない。

- 1．沿革
- 2．基本理念
- 3．利用者サービス
- 4．情報サービスの基盤整備
- 5．管理・運営

平成5年5月に『広島大学白書1 新しい大学像をめざして - 専門深化と総合化 - 』が刊行され、附属図書館に関する諸項目も「部局等の現状と展望」の中に収められた。詳しくはそれをご参照願いたい。

広島大学附属図書館の課題と展望

上に述べた「自己点検・評価報告書」では、図書館運営の理念について、次のように述べていた。

目 次

図書館の仕事シリーズ13：附属図書館長	1
カナダ、米国図書館の先進的事例の調査・視察報告	3
中央図書館の建物スケッチ	6
4年目を迎える外国語雑誌目次データベース	8
大学図書館職員長期研修に思う他	10
広島大学附属図書館の変遷（明治35年～平成11年）	11
トピックス	12
編集後記	12

広島大学附属図書館は、図書及び各種学術情報を本学構成員及び関係者に提供するとともに、現在では情報センターの機能を有する機関である。また、本学においては研究図書館、学習図書館の機能とともに、長年の歴史の間に収集された貴重図書を収蔵する貴重資料図書館としての機能をも充実させなければならない。そのために、附属図書館の本館・中央館及び分館は、キャンパスの地理的状況等を考慮して配置されるが、それぞれは、有機的関連をもって一元的に組織され、運営されなければならない。

統合移転の完了とともに文中にあった本館は廃止されたが、ここに示された基本理念は、いささかも変わっていないとみてよからう。

おおよそ上記の自己点検・評価の項目に従って、広島大学附属図書館の現状と将来の展望を述べてみたい。

1. 平成9年に念願の統合移転を完了した広島大学には、東広島、霞、東千田の3つのキャンパスがあり、図書館は、東広島キャンパスに中央図書館、西図書館、東図書館の3つ、霞キャンパスに医学分館、東千田キャンパスに東千田分室がある。こうした体制は統合移転を見通した基本計画のもとに組み立てられ、今日まで着実に運営されてきているが、現在では、当初の計画との間に多少のズレも出てきている。東図書館は中央図書館ができる以前に、主として自然科学系の利用者のために設けられた。また西図書館は主に学習図書館としてつくられた。蔵書が増えて手狭になり、かつ電子資料等の利用が格段に拡大した現在では、中央図書館を含めた上記3館の機能の見直しを図ることが、緊急の課題となっている。中でも西図書館の電子図書館的機能の拡大が大きな課題であるといえよう。

医学部保健学科の設置等があって、医学分館の利用者が大幅に増え、電子資料の利用も飛躍的に増大した。こうした中で、医学分館の増築または改築が大きな課題である。東千田キャンパスにはこれまで法学部・経済学部の夜間主コースがあり、近々夜間大学院が誕生する。分室の充実が焦眉の課題となっている。

2. 広島大学では、全構成員の深いご理解から、先年学生用図書の予算が一元化され、学習用図書及び雑誌の購入は年々充実してきている。しかし、近年洋雑誌の価格が高騰し、特に自然科学系においてはそのことが雑誌以外の図書の購入を圧迫する状況になってきている。いきおい、各部局からのご援助に頼らざるを得ないが、それにも限りがあり、今では図書費の見直しが必要となっている。

3. 利用者の利便性の観点から見れば、本学図書館の学術資料の充実度は、いまだ十分とはいえないだろう。それを解消するための予算的措置の確保、図書資料検索のための遡及入力継続的実施、開館時間の延長

等が、今後の課題である。図書館をさらに地域社会に開放することも重要な課題となっている。

4. すでに上記の「理念」にも述べられていたように、図書館の「情報センター」としての機能は、今後ますます重みを増すだろう。大学全体の情報メディア関連施設との関係を見直し、現在の「総合情報処理センター」「情報教育研究センター」「外国語教育研究センター」等との連携のありかたを、さらに深く検討する必要がある。

5. 運営委員会の機能に関する検討と事務機構の改革も大事な課題である。行政改革の推進で、図書館職員の数もすでに限界近くまで削られた。常勤・非常勤職員の献身的な努力のおかげで図書館サービスの水準が何とか保たれているが、将来的には、さまざまな工夫が必要であろう。



館長室からの風景（平成12年3月）

図書館長のひとりごと

上に記したように、現在附属図書館が抱えている課題は、複雑で、多岐にわたり、どの一つも解決は容易でない。図書館長の仕事はこれらの問題を整理し、解決への方策を練ることであるが、一挙の解決はとても望めない。広島大学の全構成員のお智慧を借りて、一步步、よい方向へ進んでゆくほかはない。しかし希望がないわけではない。仕事から多くの人と話し、多くの人のお話を聞く機会がある。大学執行部のかたがた、教官・事務官のかたがた、図書館職員、学生諸君、広島大学卒業生を含めた地域のかたがた...こうした人達と話していると、図書館への率直な感想や不満、あるいは要望をうかがうことができ、同時に、図書館改善への有効な方法を教えられる。そして課題の解決に立ち向かう勇気を与えられる。図書館の中で、熱心に本を読んでいる人、パソコンを使って図書検索をしている人、書庫の中から多くの本を抱えて出てくる人等に会うたび、こうした人達のために、私も何か役に立ちたいと思う。研究とも学習とも言わず、敢えて勉強と言うけれど、勉強が好きの人、勉強が必要な人のために、図書館がお役に立てればよいと思う。そうして、そんな図書館を作るためにも、私自身、一生勉強が好きでありたいと思っているのである。

海外研修報告

カナダ、米国図書館の先進的事例の調査・視察報告



「情報の電子化及び電子図書館運用に関する諸問題の調査」というテーマで、広島大学後援会の平成11年度国際交流助成金を得て、情報管理課医学分館の諸富係長と情報サービス課の山根がカナダ、アメリカ合衆国に出張してきました。主な訪問先はカナダのブリティッシュ・コロンビア大学(以下 UBC)と、アメリカのカリフォルニア大学ロサンゼルス校(以下 UCLA)です。

日 程

訪問先と日程は次のとおり(日付、時刻はいずれも現地時間)。

- | | |
|-------------|------------------------|
| 12年1月23日(日) | 16:55関西空港出発 |
| | 12:20バンクーバー空港着 |
| 12年1月24日(月) | 10:00ブリティッシュ・コロンビア大学訪問 |
| 12年1月25日(火) | 10:00バンクーバー公共図書館訪問 |
| 12年1月26日(水) | 12:50バンクーバー空港発 |
| | 15:20ロサンゼルス空港着 |
| 12年1月27日(木) | 9:30カリフォルニア大学ロサンゼルス校訪問 |
| 12年1月28日(金) | 10:00ロサンゼルス公共図書館訪問 |
| | 14:00全米日系人博物館訪問 |
| 12年1月29日(土) | |
| 12年1月30日(日) | 10:30ロサンゼルス空港発 |
| 12年1月31日(月) | 16:05関西空港着 |

出発までに

出発するまでに、訪問先の大学図書館と電子メールでやりとりをし、こちらの質問事項などを伝えましたので、UBC、UCLA 共にこちらの質問事項にそった日程を用意してくれました。又、こちらの英語力を気遣って、通訳が必要かどうかの問い合わせもあり、英語力に自信のない私たちは、もちろん通訳をお願いしました。

ブリティッシュ・コロンビア大学

23日にバンクーバー空港に到着し、タクシーで UBC に向かいました。バンクーバーは、海が近く海流の関係で暖かく、遠くに見える山々には雪がありましたが道路や広場などにはほとんど雪はなく、気温は広島と同じぐらいに感じました。



翌24日はさわやかな晴天でした。朝9時50分に Asian Library の権並さんと待ち合わせをしました。

UBC では、権並さんが1日中私たちと一緒に各部署を回って下さり、通訳をして下さいました。

10:00 Keate 副館長のオフィスを訪ね、UBC 図書館の大まかな説明を聞きました。副館長は、「バンクーバーは雨が多く、今日の様な晴れの日は珍しい。あなた達がこの天気を運んで来たとはいえない。」と、ジョークを交えて歓迎してくれました。

10:30 Crema さんの案内で Koerner Library (1997年にオープンした新しい図書館)を見学しました。



11:00 Campbell さんに図書館ホームページの作成について、続いて Adam さんに Library Instruction について話を聞きました。

お昼には、学内のレストランで昼食をごちそうになりながら、Keate 副館長と権並さんからいろいろな話をお聞きしました。

13:30 Crema さんに、実際の操作も交えて

ILLの説明をしてもらいました。

14:15 Kreiderさんに、図書館予算に関する話をしてもらいました。雑誌価格の値上がりのため、毎年多くのタイトルを購読中止にする必要があり、そのタイトルの決定に苦労しているという事でした。

UBCの図書資料費の比率は、1999/2000年でPrint Serials 54%、Monographs 24%、Electronic Resources 22%であり、比率としてはこれぐらいが良いと考えているという事でした。

15:30 権並さんの案内でAsian Libraryの横にある新渡戸庭園を見学しました。原生林の中に美しい日本庭園が広がり、野生のリスを見る事もできました。庭園の中の茶室はUBCの茶道部が使っているということでした。その後、Asian Libraryの見学をしました。この建物は大阪万博の三洋館を移設したもので、日本語、中国語、韓国語の資料が集められていました。

Asian Libraryを後にしたのは18:30頃で、外はすっかり暗くなっていました。大学の近くの中華レストランで夕食をとり、宿にもどりました。

バンクーバー公共図書館

翌25日朝起きると冷たい雨が降っていました。大学内で朝食をとり、バスでバンクーバーの中心街に行き、バンクーバー公共図書館を訪れました。バンクーバーの中心街にある図書館は7階建ての建物で、各階は主題別に分かれて図書が配置されています。各階のレイアウトはほとんど同じで、エスカレーターで上がったすぐ近くにOPAC、レファレンスデスクが配置されており、7階には有料のコンピュータールームがありました。書架の上の蛍光灯は天井を照らす様になっていましたが、十分な明るさがありました。



26日にバンクーバーからロサンゼルスに移動しました。ロサンゼルスは最高気温が20度あり、空港におりたった第一印象は「暑い」、でした。タクシーでホテルに向かい、ホテルに落ち着いたのは夕方でした。少し薄暗くなっていましたが、UCLAの近くのホテルでしたので、下見をかねて明日訪ねるYoung Research Libraryに徒歩で行く事にしました。図書館に着いたのは夕方の6時頃でしたが、UCLAの構内を歩いてみた第一印象は、敷地が広い事と建物が大変美

しいことでした(夜はライトアップされている)。ロサンゼルスは夜間外を歩くのは危険だ、と聞かされたいたしましたが、大学の構内は学生が多くいて危険は感じませんでした。Young Research Libraryに入ると1階に沢山のコンピュータが置いてありましたので、あらかじめ取得したHotmailのIDを使って職場にメールを出しました。構内の店でサンドイッチとジュースを買い、外のベンチで食べたのですが、この日は3食ともサンドイッチしか食べられなかったのが、ご飯が恋しくなりました。

カリフォルニア大学ロサンゼルス校

27日9:30にEast Asian Libraryに行き、Tsiang館長とMarraさんにお会いしました。Marraさんは1日中私たちと一緒に各部署を回って下さり、通訳して下さいました。



10:00 CaravelloさんとDeckelbaumさんからLibrary Instructionについて詳しく話を聞きました。図書館員一人が4~5学部を担当し、授業の一環としてLibrary Instructionを行っている。参加者の数は少ないが、教官に対しても行っているという事でした。

12:00 Faculty Centerで昼食をごちそうになりながら、Tsiang館長とMarraさんに色々なお話を伺いました。



13:30 Consalesさんの案内でBiomedical Libraryを見学。MerinoさんからBiomedical Libraryにおけるマルチメディアの利用について詳しい話を聞きました。医学教育のための教材を医学部と図書館が協力して開発していて、それをWebで公開している。それにアクセスすると、聴診

器を当てる位置によって心臓の音が変化する事がパソコン上で体験できたり、解剖をする様子が動画で体験できるものでした。3階には24時間コンピュータが利用できる部屋があり、試験前には大変混雑するそうです。

15:00 WalkerさんとSalvadorさんからUCLAの図書館システムについて詳しい話をききました。UCLAの図書館システムORIONは、最初Biomedical Libraryからはじまった独自に開発されたシステムでしたが、2000年問題に対応できない事などから新システムORION2への移行作業を進めて来たそうです。DRAというベンダーが提供するパッケージを元にORION2を開発してきたが、未だに稼働していない様です。

最後にWerner館長が私たちのために時間をとって下さり、色々なお話を伺いました。日本から持参した広島大学の名前が入った時計をお渡しすると大変喜ばれました。最後まで通訳をして下さったMarraさんにお礼を言って、図書館を後にしたのは夕方6時を過ぎていました。大学内の店でUCLAのロゴの入ったおみやげを買ってホテルにもどりました。公式日程が終わってほっとしました。

翌28日は、朝起きてもう一度大学へ行ってみようという事になり、大学の中を散歩しました。UCLAは敷地が広いせいか、複数の図書館があります(主なもので12)。又、古い様式の建物(イタリア風?)が多くあり、ほとんどがHallという名前と呼ばれていますが、その中にはComputer Labという名前で多くのコンピュータが設置されていました。



ロサンゼルス公共図書館

大学から帰りホテルをチェックアウトしてから、タクシーでロサンゼルス公共図書館に行きました。全米3位の蔵書を持つ図書館という事で、日本のガイドブックにもものっています。外見はそんなに大きな図書館には見えませんが、中に入って見ると大変大きな図書館である事が分かりました。地上4階、地下4階になっていて、各階は主題別に図書が配置されています。各階とも入り口付近にコンピュータとInformation Deskが配置されています。図書館に関する数種類の印刷物が自由に持ち帰る事がで

きる様に置いてありますが、全て英語とスペイン語で書かれていました。館内には警察官が巡回していて、ロサンゼルス市の治安の悪さを実感しました。図書館の近くで昼食をとり、地下鉄に乗って有名なロサンゼルス市庁舎に行ってみました。工事中のため中には入れませんでした。地下鉄は改札口もなく、切符のチェックもありませんでした。徒歩でリトル東京に行き全米日系人博物館に行きました。



全米日系人博物館

日本からアメリカへの移住、第二次大戦中の強制収容、日系人への強制収容の補償法成立、などのテーマ別年代別に多くの写真や品物が展示されていました。又、私たちが展示を見てみると、ボランティアの日系2世の人が自分の体験を交えて説明してくれました。資料センターもあり、大変充実した博物館だと思いました。

この日の夜は、諸富係長の親戚の方と一緒にレストランに行き、この旅行で初めて豪華な夕食をとりました。

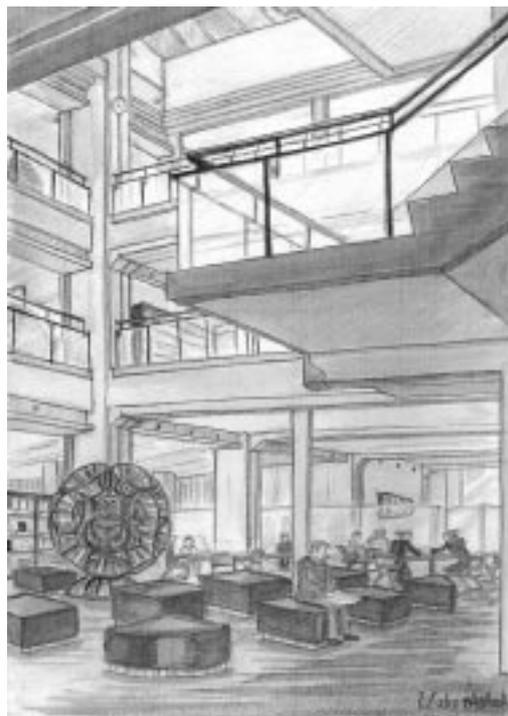
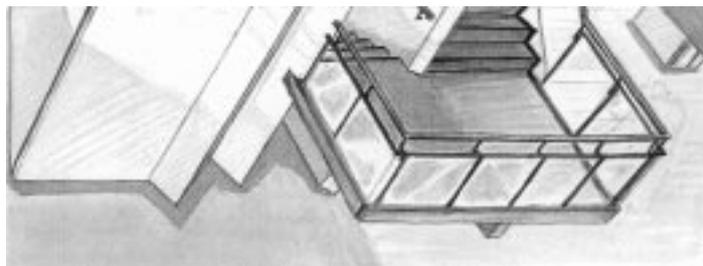
終わりに

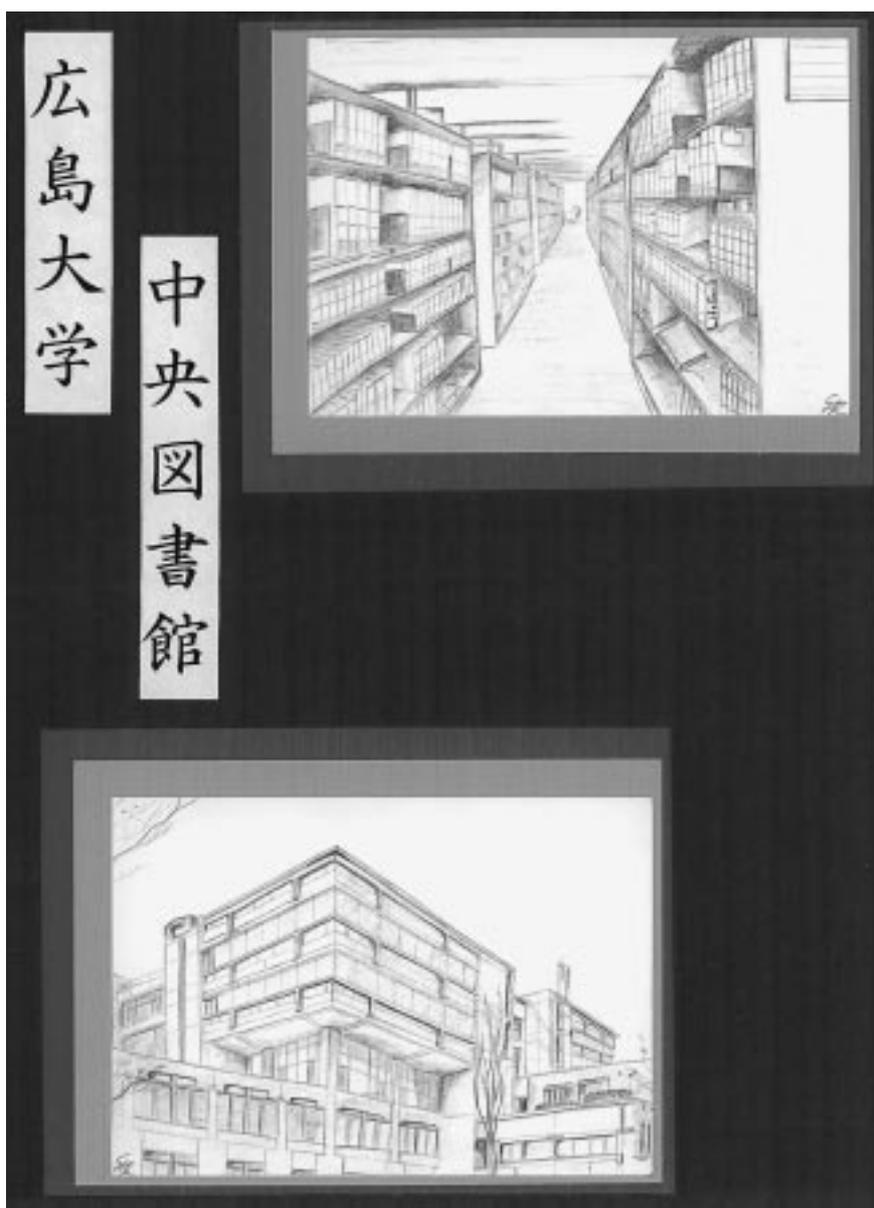
今回の出張で印象的だったのは、カナダ、アメリカにおけるインターネットの普及です。大学の中だけではなく、生活の様々な場面でホームページのURLを見る事ができました(スーパーマーケットの袋にも印刷してある)。大学図書館の中にはパンフレット類が数多く置いてありましたが、必ず参照するホームページのURLが印刷してあり、印刷物はホームページを紹介するために置いてあるという印象を受けました。

又、バンクーバー市、ロサンゼルス市の幾つかの公共図書館を訪問して感じた事は、公共図書館においても、日本の公共図書館に比べて、そのハード・ソフト共多くの面で充実しているという事と、社会における図書館サービスの必要性が広く認知され、それが図書館を充実させる基盤になっているのではないかとこの事でした。

終わりにになりましたが、今回の私どもの海外出張にご尽力下さいました、広島大学後援会および位藤館長、久野部長をはじめとする広島大学附属図書館の皆様へ感謝いたします。

(電子情報係 山根 博)





中央図書館の建物スケッチ

工学部の授業科目（平成11年度・2年生後期）「建築設計製図Ⅱ・空間と構法」の中で広島大学中央図書館を題材に用いました。その作品の中から3点を掲載させていただきました。

横山 尚

杉野 圭

鈴木 優介

4年目を迎える外国語雑誌目次データベース

附属図書館では平成9年6月より外国語雑誌目次データベース検索システムのサービスを開始した。このサービスは外国語雑誌約15000タイトルの最新の目次情報(論文名、著者名など)を学内に対して無料で提供しようとするものである。論文データは毎日更新され、附属図書館ホームページから最新の情報を直ちに検索できるようになっている。またキーワードあるいは雑誌名を登録しておけば、登録者に対して電子メールで該当の目次情報を自動配信している。

1995年よりのデータを蓄積しており、現在では982万論文にもなった。電子メールでの通知も700アイテムが登録され、データ更新のたびにその数の電子メールが自動配信されている。

本サービスはサービス開始から4年目を迎える。このシステムについて検討を開始しておくということで何人かの利用者に評価をお願いした。

(図は本文と関係ありません)

外国語雑誌目次データベースシステムについての使用感

総合科学部 平野 哲男

当方の環境は学内LANに接続されたMacintosh 8100+ G3 card、ブラウザとしてInternet Explorer 4.5により利用しています。主な検索対象は医学生物学系の雑誌です。まず条件検索。前方後方一致、andとorしかないことは、軽快さのためにある程度やむを得ないことと理解しています。正規表現などサポートしていただければうれしいが、スピードが低下するのは受け入れられない。ただしnot検索ができないことは不満です。また、バグもあるようです。私の出会った問題としては、検索語登録でハイフンがついていると条件の削除がうまくできないことがありました。係では申し出ればこちらで削除しますと言っていたのですが、面倒なので、そのまま放置しています。

次に、外部への文献複写依頼。同じキャンパスに所蔵されている文献は依頼できないので、これをいちいちopacで調べるのは面倒です。文献が大量にある場合は特に。検索結果表示の段階でその情報を与えてくれないものか。しかし、opacで学内所蔵を調べるのは、実はまだ良い。今、もっとも面倒なのは、この数年来増えてきているオンラインジャーナルの有無の確認です。オンラインでダウンロードしたりプリントはもちろん管理しやすい。エクセルのハイパーリンクなどを使えば、個人用のリファレンスデータベースを作れますし、カラー写真を含んだ文献はモノクロ電子コピーより当然クオリティーが

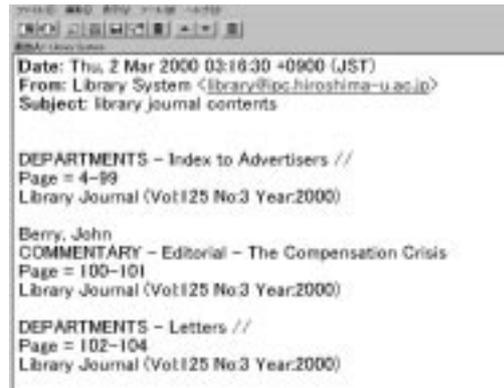
検索式登録

高い。将来的にはリプリントは、少なくとも医学系の分野では、すべて電子化されると思います。が、今は、対応非対応が混在しているので、それをいちいち図書館ホームページに戻って、確かめねばならず、ブラウザ表示の切り替えに時間がかかったりすると、いらいらします。現状では難しいだろうが、opacにONLINEジャーナルの有無の情報を入れられないものか。結局、私は、利用する可能性のある雑誌100誌以上についてONLINEジャーナルの有無のリストを手書き(oh!)で作り、複写の発注はそれを確認してやっています(*1)。

最後にe-mail配信サービス。実は、過去文献の網羅的な検索としてはMedlineの方がよいので、そちらを利用して、外国語雑誌目次データベースの利用は新着に関するこちらのサービスの方が主です。いくつかのキーワードを登録してサーチされた文献を自動的にメールで送ってくれるサービスですが、こういうプッシュ型の情報サービス利用法としては一般的でしょうが、自分のメールボックスそのものをデータベースとしています。メーラーはEudoraPro 2.1.3 for Macですが、こいつの検索機能は貧弱なのでMailHunterというシェアウェアを使用しています(*2)。検索機能の強化されたメーラー(++Mailなど)を利用すればもっといいかもしれない。EndNoteなどへ取り込むことはやっていませんが、

Perlなどで適当にフォームを整えれば出来るだろうと思う(そのうちやろうっと)。

- * 1 リストを <http://home.hiroshima-u.ac.jp/thirano/OLJa.html> に公開しました。利用されたい方はどうぞ。
- * 2 その後、バージョンアップした Eudora4.2 は検索機能も比較的充実しています。



広島大学外国語雑誌目次データベース検索システムの感想

理学部 大房 健

わたし自身は、動作してくれている限り、あまり大きな不満はありません。もし、しいて言えば、get file 可能な、online journal と連動されているととても嬉しいのですが、難しいのでしょうか？

広島大学外国語雑誌目次データベース検索システムを使った感想

広島大学名誉教授 内山 敬康

私は、従来 ISI 社の REFERENCE UPDATE を使っていましたが、ある事情で使えなくなり、急遽このシステムに切り替えました。私のニーズは次の通りです。

1) 私の研究分野はがん生物学ですが、関連する雑誌は多数にのぼります(私の持っている文献の洋雑誌の種類数は280になります)。だから、題名、キーワード、アブストラクトの中のワードなどで検索することが必要です。2) 新着雑誌について、個別にその都度行いたいので MEDLINE などは使えない。3) この分野では次々に新しい現象や遺伝子の発見が多数あり、新しい用語がどんどん作られています。従って、あるワードで検索するには「NOT」検索語を沢山(たとえば10以上)並べる必要があります。

ところが、現在の大学のシステムでは使えるのが「AND」「OR」だけですから駄目です。そこでワードでの検索はあきらめて、特定の雑誌40タイトルを選び、全部の目次に目を通すことにしました。ところが、検索システムの使用説明が整備されていません。現状と、現在欠けていることを以下に列挙します。

1) 図書館のホームページには問い合わせ先の電話番号が書いてあるだけです。担当者の氏名を入れて下さい。2) 私は、たまたまこの検索システムがスタートしたときに配布された利用者マニュアル(VERSION 1)を持っていました。現在のものは VERSION 1 とは違うものですが、VERSION UP した利用者マニュアルはありません。多数の雑誌(10タイトル以上)を同時に検索する方法の説明はどこにもありません。

結局、何回か繰り返して電話でやりかたをたづねてやっとできました。しかし、Max Display Lines を all にすると検索できない、などの問題は解決できませんでした。詳しい利用者マニュアルをホームページに載せ、変更点あるいは新し

い利用法が分かればその都度書き直したり書き足したりしてください。3) 現在は電子メールで新着雑誌のコンテンツが次々に送られてきています。夢のように素晴らしいことです。ところが、雑誌のナンバー順に来ないのです。これは配信先へクレームをつけてちゃんとして下さい。

最後に、大学の事務責任者および利用者に次のことをお願いしたいと思います。

1) その場しのぎの対応は止めて次に同じことが起こったときにちゃんとできる手段を講じておいて下さい。必要なことはマニュアルとして残す、後任者にも説明して渡す、たまればファイルして整理する、などです。ホームページにできるだけ掲載すればいちいち説明に時間を取られることも無いでしょう。使用する際も早くできます。

2) このようなシステムは共通性が高い基本的なものですから、検索システムの開発を各大学で個別にやるのは無駄だと思います。国内でだれかが責任をもってやれば、より良いものが、より安価にできるのではありませんか。キャリアの人達の業務内容は再考すべきです。

3) 利用できるオンラインジャーナルを整備し、従来型の雑誌の購入は共通性の高い基本的なものに限定すべきです。雑誌購入のコスト、コピーサービスのコスト、図書館スペースの確保のコストに長期的に対応して下さい。

4) 事務担当者との密接な協力が無いと大学はよくなりません。事務担当者は大学を良くすることを生きがいにさせていただいて利用者の要求を歓迎し質問に答える、利用者は大学を愛し、甘えたり不満を言うことに終始せず、進んで提案し積極的に協力する、などをお願い致します。その点、今回は非常に実り豊かであり担当者には感謝しています。(2000.2.8)

大学図書館職員長期研修に思う

相互利用係 川上 裕

長期研修は、主催者にしてみればぜひ研修に行きたいと言う者を受け入れるものであって、いやいやながらに研修に来る者などいないはずだ。となると、わたしも行きたいと手を挙げたはずなのだが、不幸にしてそのあたりの記憶がすっぱり抜け落ちてしまっている。われらが広島大学図書館からは、毎年のように誰かが長期研修に行っていることから察して、もしかするとこれも順番だったのかもしれない。研修に集まった仲間の顔を見渡すと、何回も応募してやっと参加できた人もいれば、就職して間もないのにあることが1回目の応募で参加できた人もいる。皆の胸中はいかがなものだったのだろうか。

さて、3週間もの間、仕事をしないで講義を聞いてばかりの生活をしてきたのだが、これはある面から捕らえれば苦痛、ある面から捕らえれば楽しい生活だった。講義を聞くことが本職で、それで給料が貰えるのなら、これは楽な生活である。しかし、そんなうまい話があるはずがなく、研修から帰ってくると、頭の痛くなるような仕事（本職）が机の上で待ち受けているのであった。

さてさて、講義内容にも触れておかないといけない。てんこ盛りの講義メニューであるからして、この限られたスペースでその全貌を明らかにするのは困難、ならば心にとまった言葉をいくつか挙げることで、いくらかでも講義の雰囲気を感じ取っていただければと思う。ではでは、

1. 大学図書館建築の講義から＝「少し先を読

めばよい。50年先など誰にもわからない」建物の部屋の用途の話なのだが、あてはまることは多い。50年先の組織を予想して議論を行うのはいささかアレと思われるが、目先のことはばかり追っただけでもだめなのは明らか。仕事をするにあたって、何年先の状況を見通すかが肝要である。

2. 大学図書館サービスのあり方の講義から＝「高飛車な図書館員」

この言葉には会場がどっとわいた。そういう図書館員が少なくないに違いない。自分に限ってそんなことはないと思われているだけに、ひとごとにしてはいけぬ。

3. わかりやすい表現の講義から＝「日本4大悪ドキュメント」

内訳は「官庁文書」「判決文」「マニュアル」「学者の書いた文書」（順不同）なのだそう。ひとにわかってもらえるように書くことの難しさは日頃から実感しているが、それでもまだ改善の余地はあるに違いない。

4. 学術情報センターの電子図書館の講義から＝「ソフトウェアの知識の価値の半減期は3年」

ということは、3年のあいだに、それまで勉強してきたすべての事柄と同じ分量の知識を習得しないと、知識水準を維持できないことになる。シシュフォスの神話にも似て、なんともやりきれない。どンドン時流に置いていかれるのも無理からぬ話である。

「平成11年度 第1回総合目録データベース実務研修」受講報告

洋書目録情報係 野村 和子

平成11年9月20日から10月8日までの3週間、学術情報センター主催の、総合目録データベース実務研修に行きました。

この研修に行かせていただくことになったとき、今まで受講した何人かにきいてみたのですが、年によって少しずつ変わってきているようです。

そもそも、昭和60年に始まったときは、研修期間も8週間と長く、「目録所在情報サービス参加図書館において、業務担当者の指導や講習会の講師を行うなど、各館の中核となる担当職員を養成する。」というものでした。

もちろん現在もその趣旨に変わりはないのですが、最近は個人研修という名目でレポート作成が最重要課題となっています。3週間でレポート5枚（8000字）というのは結構大変です。

その合間には、「目録所在サービスの基本思想」という講義なども組み込まれており、実務上の課題を共同討議する場もあります。

長い間、研修に縁のなかった私にとっては、かなりプレッシャーになりました。そこで周りの人からのアドバイスに従って、まず研修の前にレポートの下書きをしておきました。

レポートのテーマはすでに研修先のセンターに提出済みですので、下書きをしておけばあとはなんとかなるだろうというのきな発想だったのですが、これが甘かったのです。

行ってみれば、さっそくテーマについての検討があり、そこで講師からいろいろ質問や課題の再

検討などがあるわけです。私の場合、日本語ヨミ不要論を展開するつもりでしたが、これではだめかなと思ひ、結局書き直しをすることになりました。というわけで、できあがったのが「日本語ヨミの自動付与および翻字の自動入力」です。

けれども、研修そのものはとても楽しいものでした。全国の大学図書館から12人もひとが集まり、3週間一緒に研修を受けるのです。よその大学の話聞くのは新鮮でした。

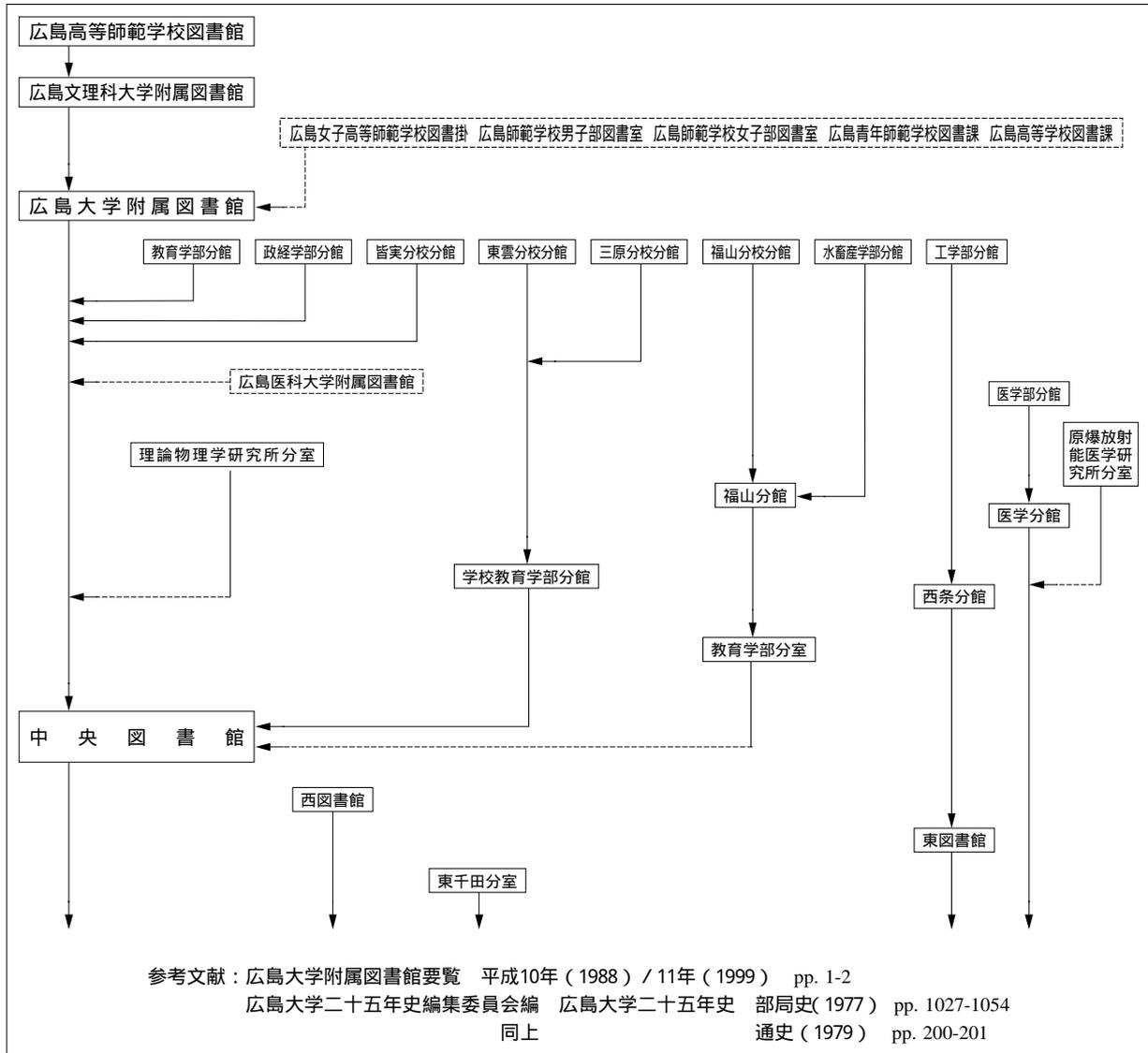
今回から、研修が始まる前にセンターの担当者がメーリングリストを作ってくれたので、みんなとメールのやりとりをして、実際に出会ったときにはすくなくよくなれました。研修のテーマが他の人とかち合うということもなく、人によっては、各大学の現状を前もってアンケートで聞いて、研修の資料として活かすこともできました。

研修が終わってからもメールのやりとりを続けていますが、これは私にとって、とても大きな財産になったと思っています。

この研修に行かせていただいて、とてもよかったですと思っています。そして、忙しい時期に、快く送り出してくれた職場のみなさんに感謝しています。



広島大学附属図書館の変遷



- 1902(明治35). 8 広島高等師範学校図書館を開設
- 1929(昭和 4). 4 広島文理科大学附属図書館に改称
- 1949(昭和24). 5 広島大学附属図書館と改称
- 1950(昭和25). 5 皆実分校分館、教育学部分館、東雲分校分館、三原分校分館、福山分校分館、工学部分館、政経学部分館、水畜産学部分館を設置
- 1953(昭和28). 8 医学部分館を設置
- 1955(昭和30). 4 教育学部分館を附属図書館に統合
- 1957(昭和32). 4 政経学部分館を附属図書館に統合
- 1958(昭和33). 5 理論物理学研究所分室を設置
- 1961(昭和36). 4 皆実分校分館を附属図書館に統合



- 1961(昭和36). 6 原爆放射能医学研究所分室を設置
- 1962(昭和37). 4 三原分校分館を東雲分校分館に統合
- 1967(昭和42). 4 福山分校分館と水畜産学部分館を統合して福山分館を設置
- 1967(昭和42). 4 医学部分館を廃止し、医学分館を設置
- 1978(昭和53). 6 東雲分校分館を廃止し、学校教育学部分館を設置
- 1981(昭和56). 4 原爆放射能医学研究所分室を廃止
- 1987(昭和63). 4 工学部分館を廃止し、西条分館を設置
- 1989(平成元). 4 理論物理学研究所分室を廃止
- 1989(平成元). 10 福山分館を廃止し、教育学部分室を設置
- 1992(平成4). 3 教育学部分室を廃止
- 1992(平成4). 5 中央図書館業務開始
- 1993(平成5). 10 西図書館業務開始
- 1995(平成7). 4 西条分館を東図書館に改称、学校教育学部分館を中央図書館に統合、東千田分室を設置

トピックス

(平成12年1月～3月)

海外研修報告会

1月23日～1月31日、広島大学後援会国際交流助成金による海外研修として、諸富医学分館情報管理係長と山根電子情報系主任の2名が、ブリティッシュ・コロンビア大学及びカリフォルニア大学ロサンゼルス校に派遣された。2月29日、その報告会が中央図書館ライブラリーホールで行われ、学内から35名の参加者があった。

拡大読書器、大型モニタを設置

附属図書館は教育特別設備費により、拡大読書器1式と蔵書目録検索端末に接続する大型液晶モニタ(20インチ)を中央図書館に設置した。検索端末にはWindowsの画面表示を拡大するソフトウェアZoomTextを導入した。

編集後記

ある休日の午後、広島大学のある西条から北西に向かって車で約1時間の所にある完成間近の温井ダムを訪れました。このダムの主な目的は洪水調節、発電、水道用水の供給で、アーチ式コンクリートダムとしては西日本第二の規模を誇ります。湖畔には宿泊施設や記念公園が整備され、寒風が吹きつける天気にもかかわらず人々が車を止めて辺りを散策していました。

西中国山地を源とし広島湾に注ぐ太田川の水は、下流に位置する100万都市・広島市はもちろんのこと、水不足に悩む瀬戸内海の島々の飲料水などをまかなっています。あまり知られていませんが、太田川の水は西条の各家庭へも送られています。西条は盆地という地形の影響のため水源に乏しく、古くから溜め池を作って農業用水を確保してきましたが、溜め池の水は飲用には適さないため、西条では飲料水の多くを太田川からの給水に頼っているのです。

温井ダムから車で約20分ほど川を南下すると、やがて鉄道の橋脚が現れます。さらに川に沿って下った線路わきには、旧国鉄の営業キロ2万km達成を記念した碑があります。しかし、このローカル線がまもなく廃止されようとしています。

上流では、湛水の時を今や遅しと待つかのごとく真新しく巨大なコンクリート堰。一方下流では、線路わきの溶けきれぬ雪に埋もれたままの石碑。同じ河川の上流と下流で見た対照的な姿。川の土手に揺れるネコヤナギの芽が、春の訪れを予感させていました。(岡)

広島大学附属図書館「リエゾン」 Vol.25 No.3 / 4 平成12年3月31日 発行
 発行 広島大学附属図書館 〒739 8512 東広島市鏡山1丁目2 2 電話(0824)22 7111(代)
 編集 広島大学附属図書館館報編集委員会